

第11回 秋の実句会 (二〇二二年九月七日) 兼題 「団」

81. 少しづつ忘るるひとに小鳥くる (節子) 19点

◎雀：老いっつも季節に彩られる穏やかな日常の中にいられることの幸運を思う。季語が的確。

63. 秋団扇電話番号書いてある (しつぽな) 14点

◎くるみ：どこの家でもひとつくらいありそうなりアリティさに俳味を感じた。

153. 一日を働かし手やちろろ鳴く (翠筆) 9点

◎雀：一日をかえりみでの感慨が深く、蟋蟀の音が沁みってくる気がします。切字が響きました。

22. 秋の声聞きたく傘を閉じにけり (小和楽) 6点

◎紀子(みちこ)：はつきりと何も云ってはいませんが、秋の声を聞きたいという清々しい気持ち伝わってくる。虫の声、風の音、草の匂い、その他いろいろ想像が広がりました。

124. 鳥渡る苞の団子のほのぬくし (やぶ) 5点

◎しつぽな：乾いた羽音と空の広さ、包から伝わる自分だけの温み。対比が巧みです。

88. 鮎飯を光らす秋の団扇かな (漣) 4点

◎緑子：新米の輝き、寿司の香り、笑顔、パタパタの風 素敵なお景です

11. 秋蝶や母に貰ひし団子鼻 (しおのり子) 3点

◎雀：兼題を巧く使って情の出た句。秋蝶は程よい取り合わせかもしれません。

139. 草の実や青年団は五人ほど (すみれ) 6点

◎砂流：自然の恩恵を受けられる場所が一番豊かな筈なのに過疎化して行く。

147. 団扇といふははるけしつづれさせ (雀) 6点

◎イネ：「つづれさせ」の季語が「はるけし」によく響いています。

44. 秋霖のフルーツ缶が棚の奥 (千代志) 4点

◎千津子：取り出した果物の缶詰が長雨に光をくれる。宝ものを開ける気分。

102. ほんのりと甘き麦味噌天高し (野いちご) 4点

◎とちおとめ：元気になりそうですネ。「天高し」にて一句が大きくなり素敵です。

16. 草原に月団長と象使ひ (ぱんだ) 2点

◎千代志：旅するサーカス団が一夜を過ごす。メルヘンのような情景。